

生活支援コーディネーター・ 協議体の取り組み ～助け合いの地域づくりのために～

公益財団法人さわやか福祉財団

共生社会推進リーダー・社会福祉士 岡野貴代



生活支援・介護予防の体制整備におけるコーディネーター・協議体の役割

生活支援・介護予防の基盤整備に向けた取組

(1) **生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）の配置** ⇒多様な主体による多様な取組のコーディネート機能を担い、一体的な活動を推進。コーディネート機能は、以下のA～Cの機能があるが、当面AとBの機能を中心に充実。

(A) 資源開発	(B) ネットワーク構築	(C) ニーズと取組のマッチング
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域に不足するサービスの創出 ○ サービスの担い手の養成 ○ 元気な高齢者などが担い手として活動する場の確保 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関係者間の情報共有 ○ サービス提供主体間の連携の体制づくり など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の支援ニーズとサービス提供主体の活動をマッチング など

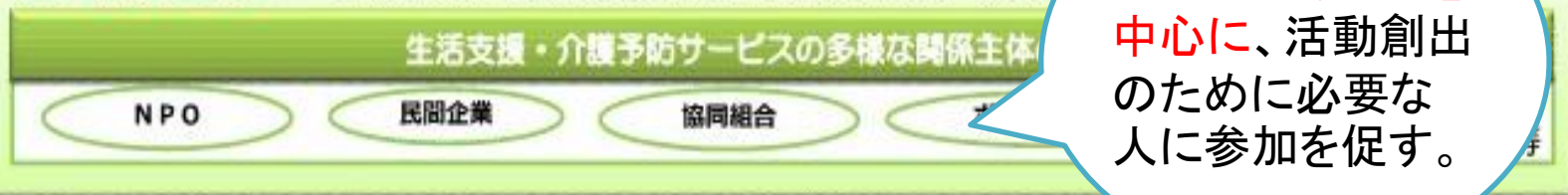
住民が必要を感じ**主体的**に取り組みたいことを応援する。

お互い知恵を出し合い、協働し、課題解決に導く。

必要とする人に**資源**をつなげる。



(2) **協議体の設置** ⇒多様な関係主体間の定期的な情報共有及び連携・協働



やる気にある人を**中心**に、活動創出のために必要な人に参加を促す。

※コーディネーターの職種や配置場所については、一律には限定せず、地域の实情に応じて多様な活用できる仕組みとする予定であるが、市町村や地域包括支援センターと連携しながら活動することが重要

生活支援体制整備事業を進める上で必要な視点

生活支援体制整備事業は「**住民主体**」で進める事業

■ 「住民主体」は「住民まかせ」ではない。

- ✓ 「主体的にやってください」ではなく、「主体的にやりたい」人や活動に働きかける。
- ✓ 協議体は状況に応じて柔軟な構成とする。

■ 住民の想いを活かすための支援をする。

- ✓ 気持ちはあっても、何をしたいかわからない、ノウハウがないこともある。情報収集・共有の場、人的交流等の支援は必要
- ✓ 高齢者支援だけを視野に入れる活動ではないため、庁内連携、行政・SCとの情報連携は非常に必要。

■ 住民周知を意識的に行う。

- ✓ 取り組みや活動を必要な人に届けるために、チラシ、冊子、通信、ホームページ等での周知も必要。また、周知は活動者のモチベーションアップにもつながる。

資源開発:

協議体は住民主体で取り組む体制となっているか

主体的にやりたい人を集めるために、フォーラムで助け合いの大切さを伝え、共感した参加者に「支え合いを考える会」（助け合いの勉強会）への参加を呼びかけた。



※さわやか福祉財団は、平成29年度の埼玉県地域包括ケアシステムモデル事業の生活支援モデルアドバイザーとして、埼玉県川島町を担当した。

資源開発:

協議体は住民主体で取り組む体制となっているか

住民周知を目的としたフォーラムの案内

助け合いの地域づくりを住民に周知するために、行政とSCが連携し、地域に出向いて参加を呼びかけた。

- ◎民生委員・児童委員は地域の状況を理解している。フォーラムをきっかけに「地域の話し合いの場」を立ち上げるには理解と参加が必要。
- ◎地域役員（区長・公民館長）は地域活動を行っていく際には不可欠な存在。
- ◎体操サポーター、体操教室参加者、ボランティア団体は助け合いに協力してくれる可能性が高い。

チラシの配布が
SCと地域がつながる第一歩となった

地域に出向くきっかけとなり、生活支援コーディネーターと住民との顔の見える関係性が構築できた。

資源開発：

協議体は住民主体で取り組む体制となっているか

「支え合いを考える会」（助け合いの勉強会）を経て、地域のために助け合いを進めたいと思いを持った住民により「地域の話合いの場」（第2層協議体）を結成した。第1層協議体は、第2層協議体の立ち上げ支援を行った。



資源開発：

協議体は住民主体で取り組む体制となっているか

- ① **協議体はやりたい人が主体的に動ける構成とする。**
 - 協議体は自ら参加を希望する人を中心とした構成を推奨。
 - 特に第2層協議体については、協議体の中に「ワーキンググループ」等を設置するなど、やりたい人が参加できる工夫をすると良い。

- ② **協議体は状況に応じ、位置づけや構成を柔軟にする。**
 - 協議体委員の他に、活動に応じてオブザーバー参加を求めるなど、メンバーの追加・変更があってもよい。
(例：社会福祉法人の送迎車両を活用した買い物支援の話し合いの際、その法人にもオブザーバー参加してもらう等)
 - 協議体は状況に応じて柔軟に設置する。再編成、分科会、位置づけの変更などがある。

ネットワークの構築： 情報共有・協働につなげる支援をしているか

協議体委員の連携（第2層協議体協議体情報交換会）



第1層、第2層協議体委員が参加し、各協議体を越えての情報交換会を実施。お互いの活動を共有することで、自身の活動へのヒントを得るとともに、協議体同士がお互いを支援するための基盤づくりを行っている。

ネットワークの構築： 情報共有・協働につなげる支援をしているか

第2層協議体リーダー・副リーダー会議 (現在は「第1層協議体」と位置づけ)



第2層協議体にはリーダー・副リーダーを定期的に行うことで、情報共有、協議体を越えての協働が進み、第2層協議体が活性化した。地域食堂等の取り組みのあるため、子どもや障がい者支援の情報が共有されることもある。

今年度より旧第1層協議体を解散し、当会議を「第1層協議体」として位置付けた。

ニーズと取り組みのマッチング： 必要な人に活動情報を届ける工夫を行っているか

必要な人に必要な情報を届けるため、
町内の社会資源を整理し、見える化に取り組んだ

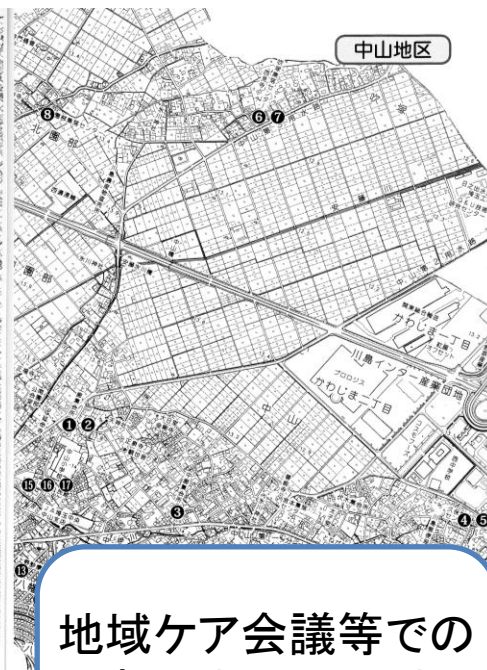


ニーズと取り組みのマッチング:

必要な人に活動情報を届ける工夫を行っているか

- 住民主体の集いの場を洗い出し「地域支え合いマップ」としてまとめた。
- 掲載する項目は住協議体で検討し、掲載写真は、協議体委員の協力で集めた。
- 行政・社協・包括の事業が掲載された従来の「シニアライフ便利帳」に組み込んで「地域支え合いマップ」を作成することで、新たな予算をかけずに作成した。
- 専門職にも配布し、地域資源の活用につなげている。

地図番号	活動場所	名称	掲載P
①	上原集会所	かわべえいきいき体操	32P
②	上原集会所	支え おっべし隊 なかやま「上原」	32P
③	中原集会所	かわべえいきいき体操	32P
④	久保集落センター	かわべえいきいき体操	32P
⑤	久保集落センター	支え おっべし隊 なかやま「久保」	33P
⑥	吹塚集落センター	かわべえいきいき体操	33P
⑦	吹塚集落センター	支え おっべし隊 なかやま「吹塚」	33P
⑧	北園部集落センター	こっこクラブ	33P
⑨	南戸守集会所	かわべえいきいき体操	34P
⑩	南戸守集会所	支え おっべし隊 なかやま「南戸守」	34P
⑪	八幡団地集会所	かわべえいきいき体操	34P
⑫	コミュニティサロン八幡(パティオ)	常設サロン(各種教室・イベント等)	34P
⑬	コミュニティサロン八幡(パティオ)	パティオ「おたがいさま」	35P
⑭	ふれあいセンターフラットピア川島	ハッピー体操	35P



地域ケア会議等での
専門職への地域
情報提供にも活躍

集...集い 体...体操 学...学習 生...生活支援

久保集落センター 中山2192番地

名称	集 支え おっべし隊 なかやま「久保」	
内容	レクリエーション・脳トレ・おしゃべりなど	
開催日時	第1木曜日 11時~正午	
参加費	100円(飲み物・茶菓子代)	
その他	駐車場あり(10台)	
問合せ先	川島町社会福祉協議会 地域福祉係 ☎297-7111	

吹塚集落センター 吹塚361番地4

名称	体 かわべえいきいき体操	
内容	おもりとイスを使い腰かけて行う介護予防体操	
開催日時	毎週木曜日 午前10時~11時30分	
参加費	無料	
対象者	筋力をつけたい方	
その他	駐車場あり(8台) 記録表・筆記用具・タオル・飲み物持参。	
問合せ先	川島町健康福祉課 福祉グループ ☎299-1756	

シニアライフ便利帳
&
地域支え合いマップ

令和2年3月発行 川島町・社会福祉法人川島町社会福祉協議会

関係者との連携

令和5年度川島町生活支援体制整備事業計画(案)

【令和5年度の目標】

1. 各地区で再開した活動の活性化を図るとともに地域に必要な活動を行っていく。
2. 集い等の参加者が役割を持ちながら活動できる。
3. 活動を継続し顔の見える関係から、お互いにできる範囲で助け合う。
具体策として月1回、メンバー会議または集いを開催する。
4. できるところから、生活支援について取り組む。

【長期目標】

「向こう三軒両隣」の精神の再構築、「お互い様の気持ち」が溢れる地域を目指す。

【令和5年度会議予定】

	生活支援体制整備事業	
	地域ささえあい協議体	生活支援C
4月		年度計画作成
5月	年度計画について 各地区年間計画の共有 地域課題について	
6月		
7月		
8月	活動状況の共有 地域課題について	
9月	ケアマネージャーとの情報交換会	
10月		
11月	活動状況の共有 地域課題について	
12月	勉強会、先進地視察など	通信編集
1月		通信編集
2月		通信編集
3月	成果発表、次年度について	通信発行

生活支援Cは、年間通して、地域ささえあい協議体の活動支援を行います。

年度計画作成・共有による 関係者の意識統一

- 行政・SCにて前年度の総括に基づき、年度計画の素案を作成。
- 年度当初に協議体で共有し、委員から意見をもらい年度計画に反映。
- 年度計画で関係者の方向を統一して事業を進める。

日頃の行政、SC・協議体との情報のやりとりも重要。



まとめ

■ 協議体の活用と効果的な運営

- 協議体は住民主体で必要な活動を具体化する話し合いの場であり、主体的に取り組みたい人が参加できる体制とする。
- 住民の想いを活かし、具体化につなげるためにも、情報共有、人的交流、現場視察など、協議体が活性化するための支援は効果的である。

■ 生活支援コーディネーター・協議体、行政担当者との連携

- 高齢者だけを視野に入れる活動ではないため、庁内連携等による情報収集や、定期的な情報交換は非常に重要。
- 定期的な打合せや、年間計画作成等を通して、方向性の見える化をし、関係者全員の目線をあわせていく。

■ 行政担当者の関わり方

- 住民の声を聞いて後方支援を進める。例えば、方向性の共有、要綱整備、庁内連携、(移動販売等の) 事業者対応、経費の予算化等、行政ならではの後方支援を特に意識するとよい。



コロナ禍前後の 第2層協議体の活動状況例

～埼玉県川島町～

令和4年度地域ささえあい協議体の活動

支えおっぺし隊なかやま



コロナ禍でも会話をしないで集える「折り紙」「ぬり絵」等で、サロンを継続できるよう協議体が支援。



参加者の住民も出番や役割を持ち、集いの場をともに運営。人の役に立つことが「いきがい」「健康」にもつながっている。

手作りのゲームを作成するなど、コロナ禍で身につけた知識を、コロナ後の集いの場でも活かして活動。



現在は、地域のつながりのために、歩いて行ける集いの場を増やすことを新たな目標に話し合いをしている。

ともいき八幡



協議体委員が地域に働きかけてボランティアを募り、地域のつながりづくりと子育て支援を目指し、地域食堂を実施。コロナ禍では配食に変更して活動を継続。



配食が出来ないときは、食材を配布し、
つながりの維持と、生活支援につなげた。

コミュニティサロン八幡 **パティオ通信** 第85号

5月オープンも午後3時間

= 月例会の決定 =

政府は新型コロナウイルス感染症を5月8日(月)より感染症法上の2類から5類へ変更することを決定しました。インフルエンザと同等のあつかいとなります。社会活動も徐々にコロナ以前に戻りつつあります。

4月のパティオは制限を解除してオープンしました。解除のポイントはこの3点です。

- ①各部屋人数制限は解除。ただし、密にならないように注意。また、2階麻雀は1部屋2卓可。
- ②マスク着用は自由だが、着用を推奨する。
- ③飲食自由(飲み物は提供)

4月18日の月例会ではこの制限解除を維持しつつ、更に次の2点を確認しました。

- ④ここしばらくは午後3時間のオープンとする。趣味の教室は午前中に行う事が出来る。
- ⑤月一度行うイベントの開催を検討する。(まず手始めとして、パティオのボランティアスタッフを対象に行うことを考えています。)

コロナ以前のように、さまざまな趣味の教室とイベント開催により、多くの方の参加を期待したいと思います。新たな趣味の教室を行いたい方は事務局あるいはパティオボランティアスタッフにご連絡下さい。皆さんと一緒にパティオの活動を上げていきたいと思ひます。

なお、連休中の5月4日(木)・5日(金)を休業することも決定しました。

パティオオープンのポイント

- (1)時間：午後1時～4時
- (2)マスク着用の推奨
- (3)コーヒー・茶の提供：セルフサービス

《リユース コーナー》

<読みたい物>

- ・ホームベーカリー
- ・カメラの望遠レンズ
- ・BIG 808 800~1,250mm F9.9~15.8
- ・カメラの三脚 T9-880 TRIPOD

<読んでほしい物>…今回はありません。

必要な方・提供できる方は下欄外の事務局長までご連絡ください。

パティオ利用者3月：
293名(16.3名/日)
おたがいさま3月
利用：13件(包丁研ぎ)

包丁研ぎ
第2・第4火曜日
(9日・23日)

4月	火	木	金	土
オ	2	4(休)	5(休)	6
ー	9	11	12	13
ブ	16	18	19	20
ン	23	25	26	27
日	30	6/1	6/2	6/3
オープン時間：13時～16時				

趣味の教室		
パソコン教室	毎週火・金曜日	13時～15時
映画研究会 (5月西部劇①)	毎週月曜日	13時～15時
裁縫教室 (はぎの活用)	第2(水)(5/9)	10時～12時
水彩画教室	第2(水)(5/10)	13時～15時
安全保障入門	第3(水)(5/16)	13時～15時
書道教室	第4(水)(5/24)	13時～15時

ラジオ体操 6:30～6:40

(月)(水)(金)：南公園 (火)(木)(土)：北公園

「おたがいさま」の活動

2018年4月から始まった「おたがいさま」は近頃「包丁研ぎ」が利用の主なものになっていますが、次の9項目でボランティアスタッフが出向いて(※)以外サービスを行います。

- (1)近所へのお使い・買物
- (2)花の水やり(1回30分以内)
- (3)ゴミ出し(ゴミ集積所まで)
- (4)庭掃除・草取り(1回30分以内)
- (5)家具などの移動(重すぎる物は不可)
- (6)電灯の交換
- × (7)雪かき
- × (8)包丁研ぎ(パティオに持込)
- × (9)朝夕の安否確認

これまで、(7)・(9)以外の項目のサービスを行ってきました。(この間降雪はありませんでした。)必要な項目がありましたら、欄外事務局長までご連絡下さい。利用料1回100円です。

現在は、協議体委員活動が活動拠点としている地域の居場所「パティオ」を時間を短縮して再開

居場所での有償ボランティア「おたがいさま」も活動を再開。



えんこしょ♡♪いぐさ

コロナ禍では、活動が出来ない代わりに、住民の意識醸成をはかろうと「認知症サポーター養成講座」を企画。



認知症サポーター養成講座では、協議体が協力して寸劇も実施。



コロナ禍の活動を通して新たな協議体メンバーも増え、現在は、サロンの再開支援や、サロンでの生活支援を検討中。

ホット コミみほや

リーダー会議の情報共有からヒントを得て、コロナ禍でも会話をしないで集える認知症サポーター養成講座を実施。



身近な困りごとアンケート

「ホットコミみほや」ではみんなで支え合うまちづくりをする為に、自分たちの地域で何ができるのか、皆様にアンケートをお願いしています。
 どんな支え合いが必要か、自分たちに何ができるだろうか、今後の活動の創出に向けてご協力をどうぞよろしくお願い致します。

該当する項目に○印を記入して下さい

NO		身近な困りごと	してもらいた い事	してあげら れる事
1	家事 一般	部屋の掃除		
2		食事の支度		
3		洗濯・取り込み		
4		近所へのお使い・買い物		
5	手 軽 な お 手 伝 い	ゴミ出し		
6		花・植木の水やり		
7		庭掃除・草取り		
8		郵便・宅配便を出す		
9		クリーニングの出し入れ		
10		役場・銀行などへの手続き		
11		ビデオ・本などを借りる・返す		
12		家具などの重い物の移動		
13		電球・蛍光灯などの交換		
14	付き 添 い	車での送迎		
15		車いすの介助・手伝い		
16		病院や外出の際の付き添い		
17	趣 味 特 技	将棋・碁などの相手		
18		カラオケの相手		
19		刃物研ぎ		
20		木工		
21		携帯電話などの使い方指導		
22	交 流	本・新聞などの朗読		
23		一人の時の話相手		
24		お茶などを一緒に飲む		
25		行きたい所へ一緒に行く		
26		朝夕の安否確認		
その他してもらいたい事、してあげられる事、ご意見などをお書き下さい。				

サロンでの生活支援の
 取り組みにむけて、
 ニーズと担い手の把握
 のためのアンケートを
 実施。

現在は、
 企業への働きかけや、
 小学生との交流等、
 地域と幅広くつながる
 活動を検討中！

差し支えなければご記入下さい。

氏名 年齢 男・女

ささえ愛出丸



コロナ禍でも会話をしないで集える映画鑑賞を実施。おしゃべりをしない集いの場もあることを、他の協議体が気付くきっかけにもなった。



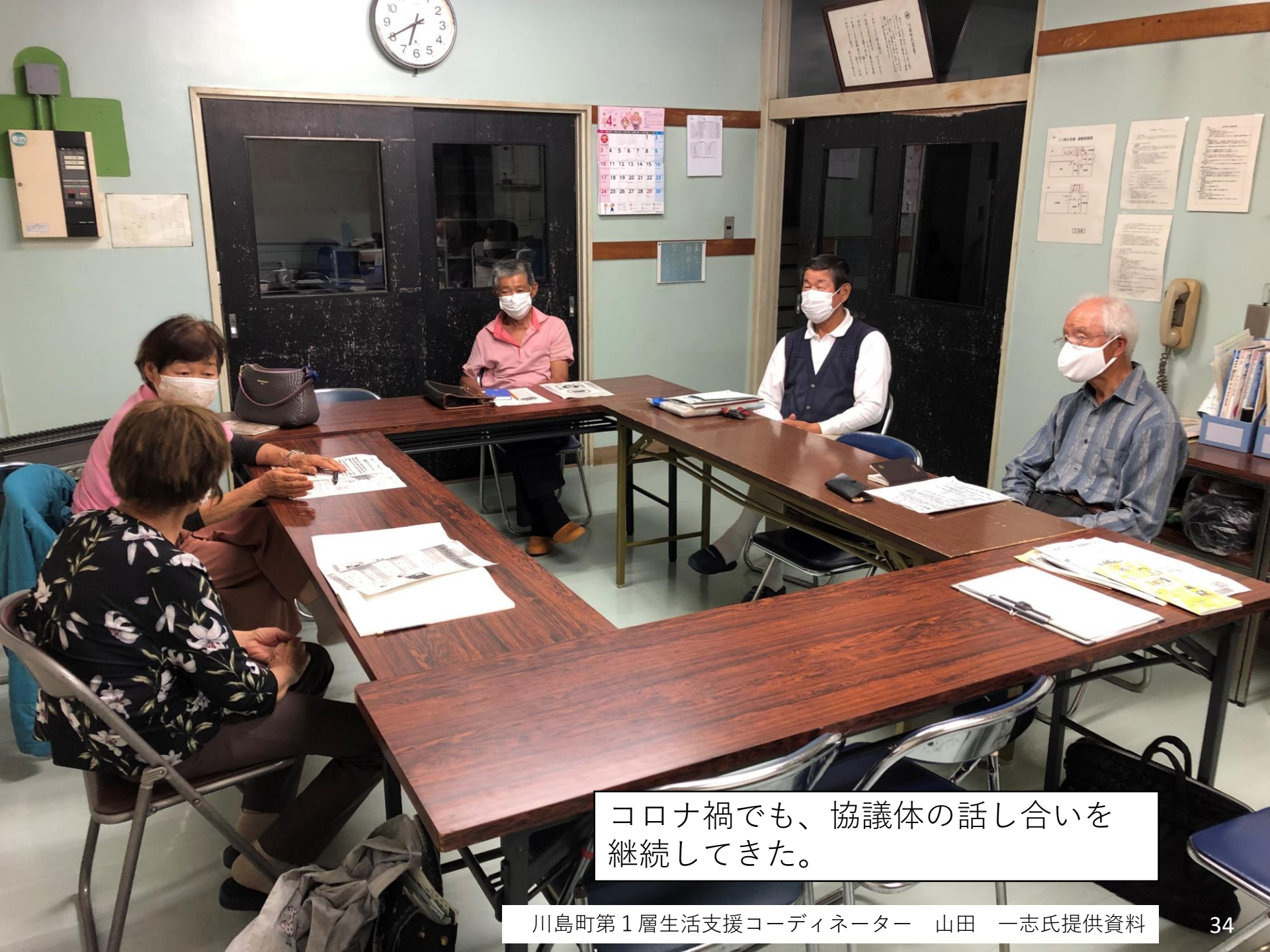
駐在所の警察官も、地域とつながりたいと自主的に協議体に参加。

コロナ禍ではオンラインでつながろうと、SCからの情報提供で、企業（ソフトバンク）の協力を得て、高齢者向けスマホ教室を実施。

現座は、出てこない人を誘おうと、月1回の通信の発行や、SCを通して企業に協力を依頼し、ビューティー講座、スマホ講座なども企画中。



元気が一番やつほ



コロナ禍でも、協議体の話し合いを
継続してきた。

感染症対策をして、サロンを企画。

活動創出が難しい地域であるため、少しでも地域を良くしたいという思いで協議体のメンバーが自ら活動を企画している。



現在は、メンバーの自宅を活用した新たな地域の集いの場を検討中。

おみの支援隊

コロナ禍でサロン等の活動が出来ないため、その機会を利用して、住民の助け合いへの理解を広めようと、勉強会を企画。協議体が地域に声をかけ、50名以上が参加した。





協議体も話し合いに参加し、
地域住民の声を直接聞く。

地域に必要な活動を考えて発表。
助け合いの大切さに気づき、勉強会を
きっかけに協議体に新たなメンバーも
加わった。

現在は、サロン活動の再開支援を中心に
話し合いを進めている。



住民の目指す地域像の実現にむけて、

住民の声を聞き、

関係者がそれぞれの立場から

住民の想いに寄り添い、

想いを活かす支援を進めていきましょう。

夢・ふれあい社会

